

鍵

Aブロック作品と講評 www.columnland.net



鍵

鍵はどんどん開発が進んでいて

なかなか開け辛い

一度なくすと

作り直すのもまた大変

そのこと自体はとても素晴らしいことだが

素直に喜んでいいのだろうか

鍵は大切なものを守るために作られている

大切なものを取られたくないから

鍵をつける

結局誰か疑っているんだ

人を疑えば疑うほど

鍵が発達するように思える

疑う心に鍵をしたい

追い出し屋

《追い出し屋》という社会問題が報道されたのは二〇〇七年頃からでした。簡単に説明すると、家賃滞納者に対し違法行為をして追い出す業者の事を《追い出し屋》といいます。

違法行為には、勝手に家財道具を処分したり勝手に鍵を交換して締め出したり直接的に追い出す行為があります。

なぜこのような問題が生じたのでしょうか。

入居者は不動産業者を通じて住宅オーナーと賃貸借契約を結びます。このときに必要となるのが連帯保証人、敷金、礼金などです。

しかし、家族関係の希薄化を背景に連帯保証人が確保できない人が増えてきました。そこで、一九九〇年代半ばに急増したのが《家賃保証会社》です。この会社は保険委託料を受け取って連帯保証人の役割を引き受けます。

ところが、二〇〇七年頃から悪質な業者が出てき始めました。これは二〇〇六年十二月にグレーゾン金利の廃止の決定がなされ、ヤミ金業者が家賃保証業に参入したのではないかという意見もあります。

家賃滞納から明け渡しまではふつう法的手続きなどで半年ほどかかります。

しかし、悪質な業者の追い出しや取り立

ては支払期日の翌日からはじまります。

さて、皆さんの中には家賃を払わないで居座っているから当然の報いだという人もいらつしやると思いますが、だから違法行為を家賃滞納者にはたらいのいい理由にはなりません。

二〇〇九年に大阪地裁で鍵交換は違法とした判決が出ました。さらに、二〇一〇年に姫路簡裁で追い出し行為を委託していないと主張する家主に対しても賠償責任を認めた。

追い出し行為は、簡単な話、財布をすられたからといってその犯人を追跡して空き巣に入るのと同じです。警察呼んだり被害届け出したり法律に沿って対処するのが普通です。

もちろん滞納者が多いと家賃保証会社は破綻すると思いますが、法律は守らなければいけない。それぐらいのリスクを背負って経営をするべきである。

追い出し規制法案は参議院では全会一致で可決したがその後小沢派と反小沢派の抗争や尖閣諸島のビデオ流出から大震災までいろいろあり放置されている。

この法案には家賃保証業者を登録制にすることが盛り込まれており、悪質な業者の排除には効果があると思う。

参議院では全会一致だったので衆議院でもすみやかに法案は通るだろう。今後注目だ。

これがはじまり

ひとり歩いてた。

何の当てもなく、何の変哲もない道をただ歩いてた。

「いつから歩いているんだろう。」

ひとり呟いてみるも返事はないままに世界は何もなかったかのように進んでいく。

ふと立ち止まった。だらしなくぶらさげていた拳をさりげなくジーンズのポケットにつこんでみる。中にはヒヤリとした感触があった。おもむろに取り出してみると、それはいたって普通な鍵だった。

鍵。

それはいつも持ち歩いている自分の家のいかつい鍵や錆びついたちゃっちゃい使い古しのチャリキーとは違ってた。一見なんでもないその鍵は『個性』を持っていた。全体はブロンズで頭部は楕円にキーホルダーをつけるための小さな丸い穴があり、ブレード部分には山形のくぼみに不規則なギザギザ。

そりゃ個性がなきゃ困るわな。

この鍵にはたったひとつの、だけでも本当に大切な役目を持つてゐる。それは家を守るがっちゃんとした門の鍵かもしれないし、重罪を犯した囚人の手錠の鍵かもしれない。それがなんであるかはわからないが、この鍵はたった一人の相棒と共に生まれ、一つの使命を果たすために懸命にこの世界を生き抜いてきたのだ。

そう思ってもう一度この鍵を眺めてみる。

ちょっと世界が変わって見えた気がした。この鍵は俺の一番求めるものを最初から持っていたのだ。

とりあえずこいつの相棒でも探してみるか。

役目をもらったおれの足取りは少し軽くなっていた気がした

かくれんぼ

「おい！どこ行った！」

今日も始まるあいつと僕のかくれんぼ

「お前がいないとどこへも行けないんだよ」

あいつにとって僕は大切な存在

「机の上にもカバンの中にもベッドの下にもない…」

早く見つけないと遅刻しちゃうよ

「戸棚の中にもカーテンの裏にも机の上にもない…」

そこはさつきも探してたでしょ

「頼むから出てきてくれよ」

そんな僕は今日もあいつのポケットの中

「ああ…今日も遅刻だ…」

いつでもすぐ側にいるのにな

そう、大事なもののつて意外と身近に

黒鍵

どうしてあるのかわからない

あの三十六個の黒いキー

押すと調子外れた音を出し

楽譜では奇妙な記号を連れている

僕にとってはそんな不気味なキー

君はあれを駆使してショパンを弾く

いったい何をどうしているのだろう

難解な楽譜をすらすらと読み

いとも軽々とメロディーを奏でるのだ

君の腕は馬のように跳ね

君の指は蜘蛛のように蠢く

没頭する君の眼はここにはない何かを見つめており

耳はここにはない何かを聞いている

おそらく心もここにはないのだろう

そのときの君はとても人間には見えず

きつと悪魔に魂を売り渡していた

僕も君の真似してピアノに触るが

楽譜も追えず

僕の指はあれの上で無様にもたつくだけ

君は手取り足取り教えてくれるが

僕は一生かかっても君に辿りつかないだろう

でもいつかそのエチュードくらいは弾いてみせる

今日も君はショパンを弾く

いつものようにあれの上で踊っている

君の指 君のいのち

そしてその君を追いかけて踊っている

僕の指 僕のいのち

僕は君と一緒にいるために生まれてきた

「ピッ」

「ガチャ」

けれども一度も会ったことがない

「ピッ」

「ガチャ」

何日も、何日も僕は君を待ち続ける

「ピッ」

「ガチャ」

「ピッ」

「ガチャ」

なんのために僕は生まれたのだろう

ああ：もう日付変わってる。

母さんや子供たちはもう寝てるんだろな。

小腹が空いてるから何か食べたいけど、オカズか何か残ってるいいな。
っと、鍵あったあった。

まあでも最悪なかったら冷蔵庫にあった枝豆でいいか…
あれ？…ああ。逆回しか

あ、でもその前に先にシャワーでも浴びよ、

ガキンツ

「…………チェーンロック……………だと…………？」

鍵を握る

手に渡された鍵の重み、そんな物よりも今確かに触れている金属の感触に酔っていた。

だからだろうか、その時ドアは開かなかったのだ。

ひねってもひねっても鍵はかかったままで、その穴は僕を拒絶する。

鍵が変なのだと、鍵が合っていないのだと僕は引き返した。

管理人さんに「なんか鍵が違うみたいです。」そう言っ、正しい鍵を貰って、戻ってくるはずだった。

休憩室の前、なにか黒いもやっとしたものが廊下を塞いでいる。

小さい鍵穴のような物があって、それは鍵を待っている、直感がそう告げる。

僕の手はそれに従う。

キイと音が鳴ったと思うと世界が黒くなる。

ずっとずっと暗かった。

カチャリ、何かが僕を開く。木の椅子に座っている僕の前には大きな鍵をもった少女が一人いるのだった。

少女の名前はキイというらしい。鍵を開けるのを手伝って欲しいと彼女は言った。

僕を開いた彼女に僕が協力する事は当然の義務のように思われた。

「これが最後……」

目的が果たせるのにキイは何故か悲しそうである。

僕等は世界中の鍵という鍵と一緒に開けてきた。

全部の鍵を回す、それが僕等の目的。

鍵の開け方、鍵の持ち方、鍵の心、全部キイが教えてくれた。

鍵は鍵を解く為にある。それ以外の何の為に存在してはいない。キイはそう考えている。

僕もそうだと思う。いやそう思うようになった。

世界の鍵を開けてゆくうちに。

だからこれを開けなければならぬ。

ドアは、鍵をひねると容易く開いた。

間違っていたのは鍵じゃない。僕だったんだ。

カチャリという音が僕を勇気づけて部屋へと促した。

これは夢だったのだろうか？

夢だったとしてそれはどこからだろうか？

どういう意味があるのだろうか？

解らない。ただ、ドアを開ける時に鳴るカチャリという音にいつも懐かしさを感じてしまう。

毎日聞いているはずなのに。

鍵は鍵を解く為以外の事の為に存在していない、キイはそう言った。

それは間違いだと思う。

確かに鍵は鍵を解く為に生まれた。

だけど、僕は鍵の感触を感じることでその存在を確認する。

それが僕にとって重要なのだ。

キイについての記憶は僕の何かを開く為に生まれたのかもしれない。

だけど、それに触れる事で僕はキイの存在を確認する。

それが僕にとって重要なのだ。

だから、僕は時々ただ鍵を握って存在を確認する。鍵の存在を、キイの存在を、鍵のある世界の存在を、キイのいた世界の存在を、僕は確認する。

僕は鍵を握る。

帰路

こちらへんで一番大きな一軒家の庭に
緑色から橙色に染まりゆく実が・・・

カキだ

公園で小学生が野球をしている

おおきく飛んだ球は俺の頭に・・・

ガキめっ！

やっとアパートに着いた

えっ、嘘だろ

ない

ポケットの中も

カバレの中も

ない

ほんとに、ない・・・

カギが あ
あ
あ

鍵が大好きすぎて顔がりんごちゃんに。

f (ガキ) Ⅱ カギ

どういうことだろうか。

これはガキを関数 f に入れるとカギになるということなのであろう。

私は、これに危機感を感じずにはいらなかった。

でもこの関数にスキスキしてます。

これはあまりにも自明なことであらう。

f (カギ) Ⅱ カキ

であるからであり、おいしいからである。

なるほど、きわめて単純な理由である。

ははは、実にゆかいである。

あの日、

それは突然僕の身に降りかかった。

はたと足を止め、

昨日からの行動を振り返った。

まあ、またいつもの所だろ。

—いや、昨日の夜まではいつもと一緒だった。じゃあ今朝か…。

そんなことを考えながら、電車を降り、改札を抜ける、そこまでは普段と変わらなかった。

今朝の行動をたどり始めたところ、僕は自分の愚かさに気づいた。

僕は大きな過ちを犯していた。

異変に気づいたのはいつもの場所にたどり着いてからだった。

僕だ。…全部僕が悪い。

あいつがない

明らかに僕の注意力が欠けていた。一瞬の気の緩みだった。

いつもここで待ってるはずなのに。なんだかいやな予感がした。

だからあいつは…

どっしり…

僕は現実から逃れられなくなった。

僕は辺りを見回し、

僕は大きいため息をつき、

駅をぐるりと一周した。

家へ向かって歩き出した。

同じ場所を三回探したりもした。思わず歩みも速まる。

今朝の過ちが悔やまれてならなかった。

そんな…、そんなはずは…。

帰り道、ほとんどため息をするようにして、同じことはやり繰り返した。

口をついて出るのはそればかり。現実を受け止めたくなかった。

—なんで鍵かけ忘れたんだろ。

僕が何かしたんだろうか？

ピアノ

『

どんな好意も
レプリカにしか思えない
見られることが
不安で仕方がない
そうして人と交わらなければ
楽にしていられる
静かに過ごすことができる
どれも、理解されることのないボクの思い
』

人が苦手なボクは
人を避けて歩く

でも、音を避けることはできなかった
ピアノの音色だ

ボクは仕方なしに、その音をたどってみる

そこに、きみはいた

静かにゆれる黒く長い髪
それと対照的に映える、白いドレス
ピアノの鍵盤をすべる、細い指
すべてが魅力的に思えた

なぜだろう、心の色がかわっていく気がした
その鍵盤をつかって織り成すきみの世界に
すっかり魅了されていた

そう、きみの奏でる旋律は
ぼくの心の鍵を解いた

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	鍵	15 pt	2 位	0 sp 技術の発達っていいことだよね、と思いつつ、考察を重ねて行くと、あれれ？ 疑う心に突き当たって立ち止まってしまいます。 そんな等身大の考察がとても好印象な表紙、ずっとみんなの心に届いてシルバー・メダルです、おめでとう!! イチオシフレーズ：「疑う心に鍵をしたい」× 2
A02	追い出し屋	4 pt	6 位	5 sp 正統派来ました！ しっかり調べて、がっちりまとめ。途中で分かりやすい比喻も織り交ぜつつ、堂々と立論した気合いの入り方に拍手！ 「である」調に文体統一すると、もっと読みやすくなります。 特別賞：コラムらしいで賞（本当のコラムっぽい） テーマを考えま賞（テーマとあまり関係がない） Great Examination Prize（ネタ的にマイナーだったから）完全にコピペで賞（語尾があってない。Wikiから取ってきただろう）ガチコラム賞（新聞に出せそうなくらい。）
A03	これがはじまり	2 pt	9 位	0 sp まさに長編ストーリーのはじまり気分のゆったりした語り口です。 特に「そりゃ個性がなきゃ困るわな」の段落の考察の深さが秀逸でした。
A04	かくれんぼ	11 pt	3 位	0 sp 鍵くん視点から、あいつとの関係を描写。 ほら、ポケットのなかだよ、とやきもきしてる、かわい鍵くんキャラクターが、短いセリフからしっかり立ってます。ラストの1行、入れて良かったですね。 おめでとう、ブロンズ・メダル！ イチオシフレーズ：「大事なものって意外と身近に」× 2
A05	黒鍵	10 pt	4 位	1 sp 黒鍵から哲学的に語り出してショパンへ。 「蜘蛛のように蠢く」なんて文学的な比喻が、お約束のクラシック美少女に濃い翳りを添えて、「いのち」という言葉のなまなましさがよく似合います。なかなか、とんがった仕上がりが印象的な一曲でした。 特別賞：おいしい！で賞（鍵盤の形になっていておもしろいが最後のところでずれていておいしい！から）
	キーレスエント	4 pt	6 位	1 sp 永遠に触れ合えない電子キー。スマートなようで、考えてみたら、ちょっとさびしいかも。

A06	リー	さくっとなりきって、インパクト。ユニーク視点が良かったです。 特別賞：リズム賞（This is nice rhysm in the column.）←rhythmだと思うよ。
A07	会社員Aの悲劇	30 pt 1 位 1 sp お父さん、たいへんだなあ。 「だと？」にくすっと笑いました。 オチすっきり、情景ありあり。グッジョブ。 みごとみんなの心をわしづかみ。30ポイントの大台まで駆け上って、ゴールド・メダル&今週のイチオシフリース大賞ゲットです、おめでとう!!! 特別賞：シュールで賞（重いのに笑えるところがよかったから。） イチオシフリース：「ガキンツ」×3 「チェーンロック……だと……？」×2 「会社員Aの悲劇」
A08	鍵を握る	0 pt 11 位 0 sp けっこうムズい設定。少女キイは全部の鍵を開けて消えてしまったってことでしょうか。 いわゆるセカイ系（でいいのか？）ファンタジーっぽく、ラストは思索的にまとめていただきました。 握りしめた鍵がせつない余韻です。
A09	帰路	1 pt 10 位 1 sp カキ→ガキ→カギの三変相。 言葉遊びをコミカルに見せていただきました。 「かける」の意図を汲んだ、しゃれた特別賞です。 特別賞：鍵をかけたで賞（鍵をかけまくっているから）
A10	鍵が大好きすぎて顔がりんごちゃんに。	0 pt 11 位 6 sp 同じくカキとガキとカギで遊んで、こちらは関数。 数学科のTAさんが、むずかしい顔してましたよ。 でもまあ、この特別賞の嵐。ポイントは入らなかったけど、ある意味、強いインパクトを与えて大勝利かも。おめ！ 特別賞：わからない賞（何が言いたいのかさっぱりわからないところ（笑））スキスキ賞（スキスキだから）意味わからない賞（ゆかいだから）意味深でしょうか、いいえ意味不で賞（りんごちゃん）説明しま賞（意味が分からない）そこ「ガッキー」で賞（「ガッキー」ならよかった。） イチオシフリース：「鍵が大好きすぎて顔がりんごちゃんに。」×2
A11	自転車を盗まれた人	9 pt 5 位 0 sp カギ無くしかないとかわせて、無くなったのは自転車ですっ。おー、なるほどね！ 読み返して、ひとつひとつの伏線がちゃんと回収できるナイス・ミスリードでした。 イチオシフリース：「ーなんで鍵かけ忘れたんだろ。」「僕だ、全部僕が悪い」
		4 pt 6 位 0 sp 「人」は避けられるけれど、「音」はまっすぐダイレクトに刺さってくる。その特質をつかまえて、そこから鍵がほどけてゆくまで。

A12	ピアノ	ラスト作品、ゆたかな余韻を響かせていただきました。 『』内がドレミファ♪で出きてるなんて気づかなかったなあ。すごい！ イチオシフレーズ：『』の中全部
-----	-----	--

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	無題（鍵穴）	0 pt 鍵穴のなかに「鍵」は一つだけ。あとはニセモノ。 気づいて納得。ナイスアイデア！ 特別賞：努力賞（よく頑張った！レイアウト）	12 位	1 sp
B02	鍵穴	7 pt お留守番、という設定が、いつも家から動けない鍵穴姫の特徴をうまくつかまえて、感情移入を誘います。 コミカルでちょっとセクシーな姫の魅力全開でした。 イチオシフレーズ：「違う、あなたじゃない」	7 位	0 sp
B03	きっかけ	4 pt 鍵つながり。小さなできごとに、ふっと心が軽くなる。 ポジティブな仕上がり、何より折り目正しいフォントと文体が好印象でした。 イチオシフレーズ：「きっと、明日の朝もドアは軽い」	8 位	0 sp
B04	かぎっこ	12 pt 寂しいという言葉をも自分に引き寄せたくない小学生。でもやっぱり、お家は広いし静かだし。 小さなキモチになりきって、その感覚で「音」をつかまえた工夫がしっかり生きて、かぎっこ気分を伝えています。 フロアにもかぎっこさん多かったでしょうか。共感力大でブロンズ・メダルです、おめでとう！ イチオシフレーズ：「フケーキ」	3 位	0 sp
B05	暗闇	9 pt ただいまヒキコモリ中、でしょうか。 自分では開けられない。閉じ込められてしまった閉塞感がひしひし伝わってきます。 特別賞：ふたりで会いま賞（二人は合っているから 12 とセットで受賞）	5 位	1 sp
B06	修学旅行	2 pt 引っ張って引っ張って、あっけなく鍵ささりオチ。 なかなかのインパクトです。リアリティ抜群、いかにも修学旅行っぽい、わいわい感。実話でしょうか？ 特別賞：ゴリラ賞（安倍のイチオシ 以上!!）	10 位	1 sp
B07	人生	3 pt 人生には節目節目に扉があって鍵を使って前進するんだというイメージ、特に受験をクリアしたあとだと、しっくり馴染むでしょう。 さて、大学で探すべき鍵は？	9 位	0 sp
B08	しめた、あいてる	14 pt タイトルのセンス、同時並行の構成力、じわじわ見えてくるストーリー男の不気味さ、すべてにパーフェクトですばらしい。 そして、まさかの女性作者さんだなんてっっ！ シルバー・メダル&最多特別賞です、おめでとう!! 特別賞：変態賞（フォントに変態っぽさが出てる）実話で賞か？（あまりにリアルだから）深いで賞（多分ス	2 位	6 sp

		トーカーだから）ド変態で賞（気持ち悪い、吐き気をもよおす、共感できる） ふふ。賞（ふふ。） タイトルが神賞（タイトルとテーマが上手くかけられている。） イチオシフレーズ：「しめた、あいてる」×2 「へえ……意外だなあ、こういう下着が好みなんだね。ふふ。外に干してくれないから知らなかったよ。」
B09	水のあるなぜか 落ち着く場所	19 pt 1 位 1 sp 重々しく始まっておいて、水のある……というオチのつけかたが、ストレートでなくて、ふわっといい感じ。しゃれたコント気分ですね。ストーリーを振り切って家族モノが首位です、おめでとうゴールド・メダル!!! 特別賞：一休和尚（賞）（子供が冷静に機転の利かせた返答をしたから） イチオシフレーズ：<<子>>「駅の使えばいいじゃん。」×2 <<母>>「いってらっしゃーい。」「父さん、もう準備出来てるから。」
B10	鉤括弧	1 pt 11 位 0 sp あーあ、これだけ思い切ったのに、失っちゃったんだと、せつないオチ。 山場のところを「以下略」とか、スピード感つくるのが巧いですね。前半が思いっきりクサイ分、爽快に笑えます。
B11	執行前夜	10 pt 4 位 2 sp 青白い月明かりが照らし出す死刑囚。 客観視線で描くことで、彼は何を思って最後を迎えたのかなと、いろんな想像を刺激してくれます。 描写力、すばらしかったです。 特別賞：シリアス賞（テーマがかぶってなくてシリアス） 麻原賞（彼としか思えないから）
B12	無題（心の鍵）	9 pt 5 位 3 sp 心の鍵ネタあまたあれど、ここまでダイレクトに刺さったのは、おみごと。 たったワンフレーズの作品で、今週のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう！ 特別賞：simple is the best賞 simpleで賞 1文字5点GET賞（12文字で60点とかバロスww） ふたりで会いま賞（二人は合っているから5とセットで受賞） イチオシフレーズ：「あなたの心の鍵を開きたい」×5